

宮古・釜石地域漁業復興プロジェクト

岩手県宮古市

事業実施者：宮古漁業協同組合

使用船舶名：第11勝運丸(75トン)
第111勝運丸(75トン)

支援期間：平成26年4月1日～平成29年3月31日

(沖合底びき網漁業2そうびき)

(取組の内容)

- 省エネ：新船導入により燃油消費量を約20%削減。
- 省人・省力化：水揚作業省力化により乗組員数を1名/隻削減(22名→20名)
- 資源保護：体長10cm以下のキチジ個体の混獲削減を図るため選択網を導入。
- 高付加価値化：マダラの沖×生産によりブランド化を目指す。スルメイカとスケトウダラの箱詰生産により魚価を向上。
- 衛生管理：殺菌海水製造装置の使用により衛生管理を徹底。



新型船導入



スケトウダラの箱詰

(事業の成果)

- 新船導入に当り船型をバトックフロー型にするとともに、減速大口径プロペラの導入等、各種省エネ対策を講じた結果、**燃油消費量**は所期の狙い通りほぼ**20%削減**された。
- 魚艙内での魚箱移動に特殊パレット(底面にスライドバーを装備)を導入したことにより水揚時の作業を震災前(4名)から1名減の3名で行うことができた。結果、**乗組員**を1隻当たり1名、**計2名減員**できた。
- 水揚量は震災前(3,850トン)より約13%減少(3,347トン、3年平均)したが、単価が約1.9倍に向上(105円/kg→202円/kg、3年平均)したことにより水揚金額は675百万円(3年平均)を確保し、償却前利益267百万円(3年平均)が得られた。
- **選択網の導入**によりキチジは総漁獲量45トンで、うち体長10cm以下の個体の漁獲量は2.7トンであったことから、**脱出率を基に推定すると7.6トンが脱出**したことになり、資源管理型漁業の橋頭堡が構築された。